

2024.5 のブログ：日銀は国債購入を続けるらしい、の詳細

(→ <http://www.1968start.com/M/blog/index3.html#2405>)

日銀は国債購入を続けるらしい

中所武司

■このブログのきっかけ

赤字国債が気になるので、4/26 の日銀総裁の記者会見に関する下記の日経の記事に基づいて、コメントする。

日経記事 (4/26) : 『 日銀総裁会見要旨、国債買い入れ「変更はない」 』

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB267Z00W4A420C2000000/>

■記事内容の抜粋とコメント (→★)

・日銀総裁が 26 日開いた金融政策決定会合後の記者会見の要旨は以下の通り。

・決定内容

長期国債および社債の買い入れは、2024 年 3 月で決定した方針に沿って実施

・経済・物価の見通し

景気の現状は一部に弱めの動きもみられるが緩やかに回復していると判断。

消費者物価の前年比上昇率は、2%台半ばになっている。

賃金と物価の好循環が強まり、徐々に高まっていくと予想される。

・追加利上げの判断材料

物価上昇率が 2%に上昇すれば政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整する。

経済・物価見通しやリスクが上振れする場合も、政策変更の理由となる。

→★日銀は物価上昇率について「2%台半ばになっている」、「2%に上昇すれば」と異なる表現をしているが、円安による物価上昇分を含むか否かで異なっている。この違いは、この記事の最後の方で明らかになる。

・円安の金融政策判断への影響

金融政策は為替レートを直接コントロールするものではないが、

物価上昇率に無視し得ない影響が発生するならば、金融政策上の判断材料となる。

→★日銀は、無視しえない影響の出る為替レートをどのあたりにみているのかな？

・具体的に無視できない影響とは

為替の変動が今年のインフレ率にどのような影響を及ぼし、来年にかけての賃金動向にどのような影響を及ぼしていくかも見極めることになる。

・現状の円安は物価を押し上げているか

今年度の物価見通しが上方修正になった主な理由は原油高で、円安が今のところ大きな影響を与えているということではない。

→★原油を輸入しているので、原油高による影響は、円安により増幅しているのは明白。
「大きな影響」とはどのくらいのこと？

・円安によるコストプッシュの物価上昇にも利上げで対応するか。

基調的な物価の動きに影響するかどうかで決まってくる。

・今後、国債買い入れは減額するか

減額を視野に入れているが、具体的にいつの時点でと申し上げられる段階ではない。買い入れ金額が減れば保有残高が減るので、長期金利に対する効果がやや弱まる。

→★日銀が国債を購入することで、長期金利の低金利を維持しているようだが、国の借金を肩代わりして破綻しない理由を知りたい。

・6兆円程度の国債買い入れを当面継続するという理解でいいか

市場動向や国債の需給をみて若干の幅の中で（日銀の）市場局に決めてもらう。長期的に買い入れの金額を減らしていく際には、アナウンスして進めていく。

→★「国債の需給をみる」という意味が分かりにくい。
日銀が国債の半分以上を保有しており、市場の国債の需給はゆがんでいるのでは？
日銀が購入しないときに国債が市場でどの程度売れ残るかは不明なのでは？

・買い入れ額の幅はどれくらいか。

常識的な範囲でという程度だ。

→★「常識的な範囲」という意味が分かりにくい。本来、購入すべきでないのでは？

・基調的な物価とは何か

各種の物価指標あるいは物価変動の背後にある需給ギャップや予想物価上昇率、賃金上昇率など経済・物価に関するさまざまな情報を丁寧に見て判断していく。

・基調的な物価上昇率は高まったか

3月から4月にかけて、生鮮食品を除いた物価上昇率は2%をかなり超えているが、過去の「第1の力」の波及効果を取ると、基調的な物価上昇率は2%を下回っている。

→★円安による物価上昇分を除くと10年来の日銀の目標である2%に達していないので、金融政策はすえおくということかな。即ち日銀は新たには何もしないということ？

・(景気に中立的な金利水準である) 中立金利はどの程度か。

私どもの政策金利はほぼ中立金利の近辺にあるんだろうなという展望は持っている。

ただ、中立金利は狭い範囲に絞ることが必ずしもできていない。

今後、到達するところがどの辺かということについてももう少し知見を深めていきたい。

→★「近辺」は「狭い範囲」ではないとのことで、この説明の意味不明。

問 追加利上げをする場合の影響をどう考えるか。

利上げの影響は広範な経済主体に及ぶ。住宅ローンの借り手に直接の影響が出る。

利払いへの影響を通じて消費にも影響があるかもしれない。

保有している有価証券の評価を通じて金融システムへの影響も考えなければならない。

利上げをするのであれば多様な影響を考慮しつつ、注意深く進めていく。

→★「注意深く進めていく」とは現状維持ということかな。

「多様な影響」については、金融緩和政策継続についても考慮すべきでは？

【過去の関連ブログを以下の示す】

▼ 2024.2 「日本経済に対する国際通貨基金 I M F の審査結果」

<http://www.1968start.com/M/blog/index3.html#2402b>

<抜粋>

→★日銀と I M F の見解の相違は、国民を不安にさせる。

少なくとも日銀には、赤字国債の買い増しだけはやめてほしい。

▼ 2023.7 「我が国財政の構造的な悪化」を読んで

<http://www.1968start.com/M/blog/index3.html#2307>

<抜粋>

→★この報告書では、日本の財政健全化への取り組みの甘さを厳しく指摘している。

政府がこれに応じて、実効性のある財政健全化の政策を取ることを期待したい。

以上